

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：一般社団法人 しなの福祉教育総研	所在地：長野県上田市上田180-6
評価実施期間： 令和5年9月6日から令和6年1月20日 *契約日から評価結果の確定日（通常、評価結果報告会日）まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050431 B18052 B2020065	

2 福祉サービス事業者情報（5年10月現在）

事業所名：（施設名）長和町立ながと保育園	種別：保育園
代表者氏名： 町長 羽田健一郎 （管理者氏名）園長 岸部睦美	定員（利用人数）： 150 名
設置主体：長和町 経営主体：長和町	開設（指定）年月日： H26年 11月 1日
所在地：〒386-0602 小県郡長和町長久保507-1	
電話番号： 0268-68-2372	FAX番号： 0268-71-0933
電子メールアドレス： nagato-hoiku@town.nagawa.nagano.jp	
ホームページアドレス： town.nagawa.nagano.jp	
職員数	常勤職員： 25 名 非常勤職員 2 名
専門職員	（専門職の名称） 名
施設・設備 の概要	（居室数）
	（設備等）

3 理念・基本方針

園目標：明るく 仲良く 元気よく 心豊かな子どもに
保育目標： <ul style="list-style-type: none">○健やかで明るい子ども<ul style="list-style-type: none">・あいさつ、返事が出来る子ども・情緒が安定し、心豊かな子ども○自分も友だちも大切に出来る子ども<ul style="list-style-type: none">・共に活動する喜びを感じ、協力しようとする子ども・自己を発揮し、楽しむ子ども○夢中になって遊べる子ども<ul style="list-style-type: none">・体を動かして元気に遊べる子ども・よく見よく聞きよく考えて意欲的に取り組む子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

【長和町の特徴】

○長和町は 2005 年に長門町、和田村が合併して発足しました。町名は両町村の頭文字より命名しています。

○自然・歴史・文化が薫るまち

・長野県のほぼ中央に位置している長和町は黒曜石の産地として有名です。また、旧中山道が通る宿場町が歴史の面影を残しています。美ヶ原高原や蓼科山とつながり、四季折々の原生自然が残ります。縄文時代の遺跡も発見されており、当時の黒曜石鉱山として、鷹山の星糞峠が国の史跡に指定されています。町では自然を守り、環境を整え、美しいまちをつくることを目指しています。

○子育て・子育て支援を政策の重点に据えています。

・未来を託す子どもたちを地域が一体となって育む、丸ごと子育て長和町 を基本理念として、子ども・子育て支援事業計画が策定されています。基本目標を 3 本の柱として据え、様々な子育て支援サービスが提供されています。

【ながと保育園の特徴】

○2014 年に新築された園舎は木造（地元産使用）建築で、最新システムが導入された広く心地よい空間です。園庭や園周辺には季節を感じられる豊かな自然が広がり、子どもたちはのびのびと過ごしています。

○子育て支援の一環として、一時預かり保育、延長保育を実施しており、保護者がゆとりをもって子育てができるように、また子育てと就労との両立を支援しています。

○未就園児親子の交流や情報交換、育児相談、子育て講座、就労支援等を行う支援センターを開設しています。保健師等が専門分野の相談にも応えています。

○随時園開放を行い、園見学を通して保育園に関心や理解を持ってもらうとともに、支援センター同様子育て相談にも応じています。

○通園バスを運営し送迎が困難な家庭や遠方地域の利便を図っています。

○外部専門指導員のもと AET (assistant English teacher)、運動遊び、の特別カリキュラムを実施し、幼児期に様々な体験ができるよう取り組んでいます。

○年長・年中児を対象にした保育相談（町の教育相談支援員の巡回。年 6 回）や教育支援委員を交えた個別面談を実施し保護者がより安心して子育てに向きあえるような仕組みづくりをしています。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	2 回（平成 30 年度）
---------------	---------------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む）

◇特に良いと思う点

○保育士一人ひとりが自己研鑽を重ね、質の高い保育を目指しています。

・保育士は、外部から提供される研修だけではなく、専門書等からの情報収集を行いながら保育内容、活動内容の研究をしています。子どもに経験させたいこと、育てたい力を明確にして保育を展開しています。自然物の使い方、室内外の環境作り、装飾、コーナーづくり、手作り玩具など各年齢に応じた様々な活動の様子が見られました。

・専門指導員によるカリキュラムを日頃の保育に活かしています。広い廊下には運動遊びのラインが作られ、毎日の生活の中で自然に取り組めるよう工夫がされていました。保育士はラインを用いた運動効果についても理解し子どもが楽しく取り組める仕掛けをしていました。

○地域の文化を継承する活動をしています。

・年長児は 300 年の歴史を持つ地元の紙漉きを体験しながらの卒園証書作り、ロマン体験館での土粘土、ともしび博物館でのクリスマスのローソク作りなど長和町の伝承を知り、関心を持ちながら様々な体験をして地域の文化に触れています。

・小学校との交流（プール、かざぐるま拾い、音楽会など 年長児）や和田保育園との交流（年長児 年 3 回）、勤労感謝の日に合わせた郵便局や農協、消防署、駐在所訪問などを通して地元とのつながりを深めています。

○感性を育てる保育をしています。

・園舎の広い廊下や室内のスペースを利用して、コーナーづくりが行われていました。子どもの興味や関心を拾い上げ、子どもたちが想像力豊かに遊べる空間を作るなど、多くの職員が多彩な保育のアイデ

アを發揮しています。

・絵本が豊富です。絵本コーナーは落ち着いた雰囲気、好きな絵本を自由に手に取れるように配置されています。週末には絵本の貸し出しも行っています。

◇特に改善する必要があると思う点

○職員間の連携の取り方や情報共有の仕方に課題がみられます。

・保育計画の振り返りは園全体で定期的に行い、評価や分析、修正は全職員が周知、理解することが質の高い保育を目指すうえでは不可欠です。

・毎日提供される給食のアレルギー食、当日の保育体制（会議や研修、休暇などで担当が不在になるクラスと代替えにあたる保育士等）の確認、毎日の感染状況、前日に起きた園内の事故（あれば）の状況確認（場所や時間、原因など今日もまた同じ事故が起これないために）などは朝の時点で子どもに関わる全職員が共有する大切な連絡事項です。時間的な課題などもあると思いますができない理由ではなく、どうしたらできるかを、園長だけで工面するのではなく、職員みんなで知恵を出し合うことが安心・安全な保育につながります。

※一人ひとりの職員の知識や技量が高い水準にある園です。その一人ひとりの力を園全体で集結し、組織としての強みにつなげましょう。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

- ・ 共通評価項目（別添 1）
- ・ 内容評価項目（別添 2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式（別添 3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添 4）